

平成 26 年第 3 回

札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成26年第3回教育委員会会議

1 日 時 平成26年2月6日(木) 13時30分～14時20分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

委員長	山 中	善 夫
委員	臼 井	博
委員	池 田	光 司
委員	池 田	官 司
委員	阿 部	夕 子
委員	町 田	隆 敏
教育次長	西 村	喜 憲
生涯学習部長	梅 津	康 弘
生涯学習推進課長	田 中	祥 之
推進担当係長	那須野	祐 一
生涯学習係員	西 村	和 晃
学校教育部長	金 山	正 彦
指導担当部長	引 地	秀 美
教育研修担当部長	大 友	裕 之
教職員人事担当課長	阿 地	俊 弘
人事係員	佐 藤	誠
総務課長	杉 村	亮
庶務係長	井 上	達 雄
書 記	市 川	渉

4 傍聴者 14名

5 議 題

報告第1号 札幌市青少年科学館のリニューアルオープンの概要について
議案第1号 学校管理職及び指導主事の人事について

【開 会】

○山中委員長 それでは、これより平成26年第3回教育委員会会議を開会いたします。

本日の会議についてですが、会議録の署名は、池田光司委員と池田官司委員にお願いいたします。

本日の議案第1号につきましては、職員の人事に関する事項であるため、教育委員会会議規則第14条第2号の規定により公開しないこととしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山中委員長 それでは、本日の議案第1号につきましては、公開しないことといたします。

【審議前報告】

◎市立小学校3年生児童の行方不明事案について

○山中委員長 議事に先立ちまして、このたびの市立小学校3年生児童の行方不明の案件につきまして、事務局からご報告はありますか。

○指導担当部長 市立小学校3年生児童の行方不明事案について報告いたします。

まず、事案の概要についてですが、本件は、1月27日（月）、当該児童が学校から一旦帰宅後、15時ころ、ノートを購入しに出かけたまま帰宅せず、行方不明となっていたものであります。

事案発生当日の夕方に、保護者から学校に連絡があり、教職員が周辺を捜索するとともに、警察に捜索をお願いし、2日後の29日（水）夜には、報道機関にも協力を得るなどして、警察だけではなく、地域の皆様にも大変なご協力をいただきながら、懸命な捜索を続けてきました。

皆様ご存じのとおり、当該児童は、今月2日夜、警察の捜査により、けがもなく、無事保護され、ご家族をはじめ、関係者一同、ほっと胸をなでおろしたところです。

当該児童は、無事保護された後、家庭で過ごしておりましたが、昨日5日（水）から登校できるようになっております。

次に、当該児童や当該校への支援についてであります。教育委員会といたしましては、スクールカウンセラー・スーパーバイザーを派遣するなどして、当該児童の心のケアに努めているところです。

また、当該児童だけではなく、不安を感じている児童や保護者にも相談に応じることができるよう、体制を整えております。

今後、当該児童のご家族とも十分に連携を図りながら、支援してまいりたいと考えております。

今後の対策についてですが、まず、教育委員会から各学校に対して、本件にかかわり、1月30日付で、北海道警察本部からの「子どもを事件や事故から守るための注意喚起について」を通知したところです。

さらに、今後、例年2月末に各学校に発出している通知においても、改めて不審者等に対する安全指導について徹底するよう、各学校に働きかけていく予定です。

また、各学校における学校安全について、体系的に定めております学校安全計画に、校外生活についての指導を含めた安全教育や、防犯訓練の実施などを確実に位置づけ、子どもが自ら身を守ろうとする態度や、危険を予測し、安全に行動するための力を育む安全教育の充実を図ってまいりたいと考えておりま

す。

今後も、家庭や地域、関係機関等の協力を得ながら、地域の子どもの安全を見守る体制を強化してまいりたいと考えております。

報告は以上です。

○山中委員長 この問題につきまして、ご質問、ご意見、要望などがありますか。

○池田（光）委員 たまたま、私の町内ということもありまして、もともとあの地域は組織の団結力があり、子どもたちを見守る体制は非常に強固であるという印象を受けているのですけれども、その中でこういうことが起きて、私どもも大変心配する日々を送りました。やはり、地域の安全というのは、大変貴重なもので、これは、企業も含めて、そういうことを啓蒙し、対策を立てていかなければならないと改めて感じました。

特に、町内の方からは、防犯カメラの有効性などの議論も随分あり、これからは、そういったことの検証も必要なのではないかと感じております。

○山中委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○池田（官）委員 先ほどのお話では、子どものケアにスクールカウンセラーのスーパーバイザーを派遣されたということですし、子ども本人のみならず、周りの方たちの心のケアについて、遺漏ないように対応していただいているように思います。

○山中委員長 教育長、何かありますか。

○町田委員 今回、新聞報道等によつての情報ですが、警察官を装って当該児童を自宅まで連れていったというお話を聞きますと、これからの不審者対策を考える上で、各学校でも対応が非常に難しいところ、悩ましいところだと思います。

今後、不審者への対応について、どのように子どもたちに注意を促していくのか、警察とも連携しながら、教育委員会としても、各学校に対して改めて指導してまいりたいと考えているところです。

○山中委員長 よろしく申し上げます。

○池田（光）委員 この期間中、学校も随分緊張されて、24時間体制で対応されたような話を聞きました。そういう意味では、本当に先生たちにご尽力いただいて、私たちも感謝したいと感じています。

○町田委員 今回、タクシーの運転者さんも含めて、地域でいろいろな形で協力いただいたということに関しては、本当に教育委員会としてもありがたいことと思っております。

○山中委員長 そのほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○山中委員長 学校関係者、あるいは、保護者、町内の方々だとか警察その他、いろいろな立場でご尽力いただいたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

いずれにしても、今後の防止対策、あるいは安全教育、そういった関係について、今回のことを教訓に、さらにいろいろと細かく検討して、関係者に協力をいただいて、広いネットワークを構築し、子どもたちを守っていくことと、その後のケアについてもいろいろとご配慮いただくようにしたいと思います。

本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

【議 事】

◎報告第1号 札幌市青少年科学館のリニューアルオープンの概要について

○山中委員長 それでは、ただいまの件は一応終了させていただきまして、議事に入りたいと思います。

報告第1号について、事務局からご説明をお願いします。

○生涯学習部長 報告第1号「札幌市青少年科学館のリニューアルオープンの概要について」報告いたします。

資料は、議案書の2ページ目をご覧ください。

青少年科学館は、昨年5月から休館いたしておりまして、施設の耐震改修工事や太陽光発電設備の設置などを行っております。

また、2階の展示室の宇宙・天文分野の展示を更新するほか、今回、新たに、地学分野に関する展示を加え、天文・地球科学コーナーとして整備しております。

このたび、リニューアルオープンに際し、記念式典及び内覧会を、本年4月23日（水）午後2時から開催し、一般公開日は、翌日の4月24日（木）午前9時半からと決定しました。

記念式典には、市長や教育委員長並びに教育委員の皆様、地元町内会の代表の方などにご臨席いただき、また、近隣小学校の代表児童も交えながら、リニューアルを祝す式典として考えております。

続きまして、展示の主な整備内容です。こちらは企画段階のイメージ案のため、実際と異なる点もあるかと思いますが、ご了解ください。

まず、2階の展示室では、プラネタリウムのドームを利用して、北半球儀に見立てまして、本物の衛星写真を貼り、ダイナミックでリアルな地球の姿を表現します。

これを中心としまして、宇宙、太陽系、地球、北海道の四つのテーマごとに、触れることのできる地球や、地球エレベーター、北海道の代表的な岩石標本など、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができるように、展示物を配置しております。

また、3階の展示室には、青少年科学館の山崎直子名誉館長からの助言もいただきまして、国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の模型や、日本人宇宙飛行士の活動などについて展示します。

なお、教育委員の皆様へは、記念式典に関する正式な招待状を後日郵送させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○山中委員長 この関係で、ご質問、ご意見、ご要望などがありますか。

○池田（光）委員 青少年科学館というのは、私ども市民にとっても非常にインパクトのある施設と認識していますが、もともとこれをつくろうとしたいきさつは、どのようなものでしょうか。

○生涯学習部長 科学館の最初の成り立ちとしては、札幌あるいは近隣の子どもたちや大人も含めて、科学的なものに対する素養を深めるため、博物館的な要素を持った展示あるいは体験もできる施設として開設しております。

○生涯学習推進課長 昭和56年10月に、北方圏の拠点都市札幌の特色を踏まえたユニークな科学館ということでスタートしています。その後、いろいろな歴史的な経過を踏まえて、補修なり、今回の耐震化に合わせたリニューアルなどを行いながら、子どもたちが興味をもつような科学館を念頭に事業を進めております。

○生涯学習部長 学校教育との連携も続けてきており、プラネタリウムの学習投影といった形で、各小学校4年生のほぼ全員の子どもたちに見てもらうようなことをやっているところです。

学校教育との連携については、さらに深めていきたいと考えを進めているところです。

○山中委員長 多くの学校で授業の一環として利用してもらうという形ですね。

○生涯学習部長 はい。いろいろな理科の教材的なものを開発するとか、そういうことも既に行っております。今後は、それをさらに発展をさせて、学習カリキュラムとか、企業とか大学との連携等も考えながら進めていきたいと考えております。

○池田（光）委員 リニューアルオープンということで、もっと新しい時代に向けた、新しいスタートなのか、今までの延長なのか、当初のいきさつを含めて、お聞きしたかったということです。

○生涯学習部長 今回は、耐震工事とあわせて、一部の展示物について1年間の休館後にリニューアルするというので、池田（光）委員がおっしゃったコンセプトを見直すとか、もっと拡充をするとか、そこまでのものとはちょっと違います。

来年度の予算の中で、この科学館のあり方については、調査研究を進めていくことも予定していますので、その中でいろいろご意見をいただきながら、これからの科学館のあり方、学校教育との連携のあり方等について、研究を深めてまいります。

○阿部委員 3階展示室の国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の模型と書いてありますが、ここは具体的にどんなことができるのですか。

○推進担当係長 こちらは、現在、スペースシャトルが展示しておりますが、スペースシャトルは引退ということもあり、ISSの模型のほうがふさわしいということで、変えています。

それから、山崎名誉館長からアドバイスをいただき、日本人宇宙飛行士の活躍ぶりがわかる展示、さらには、JAXAからの最新の情報がわかる展示にしたいという助言もあったものですから、ディスプレイなどを使って、そのような情報を伝えていきたいと考えております。

○阿部委員 こういうものは、ほかの都市ではなかなかないものですか。

○推進担当係長 はい。山崎名誉館長になっていただいたから実現できていることかと思っております。

○阿部委員 わかりました。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

先ほどの説明の中で、2階展示室の全体及びある程度の関係の説明がありまして、地球の様子がわかるということですが、これは時々刻々と変わっていく姿を衛星中継で映し出しているのでしょうか。そうではないのですか。

○推進担当係長 今流行しているようなプロジェクションマッピングというような手法も考えられたのですが、そうすると、会場を暗くしなければならぬものですから、安全管理上、それはふさわしくないということで、衛星写真を貼っております。

ただ、このイメージでは大陸が見えますけれども、やはり、札幌の科学館の場合は環境や雪も大事にしていくということで、雪景色の衛星写真を貼る予定です。

○山中委員長 年間通して、それを貼るということですか。

○推進担当係長 そうです。年間を通してです。

○山中委員長 それは、春、夏、秋、冬とか、時期を変えてということとはできないのですか。

○推進担当係長 費用的なものがあるので、そこまではなかなかできません。

○山中委員長 やはり、興味を持つ側からいえば、そういう時期的なものも考えたほうがよいかなという気がしました。

もう一つは、北海道で開発したロケットが美唄のほうにありましたが、そうした関係の展示はしないのですか。そういうものも取り上げていったほうがよいのではないかと思います。

○推進担当係長 夏休みや冬休みの特別展示の中で、そのようなご協力をいただいて、展示ですとか、講演をいただくというようなことは、これまでもありましたが、館側とも検討してまいりたいと思います。

○山中委員長 北海道とのつながりを意識したほうがよいような気がします。

○阿部委員 現在、ここの科学館自体は、年間でどのぐらいの方が利用されているのですか。

○推進担当係長 36万人ぐらいです。

○阿部委員 目的は、子どもや大人の科学の情報をさらに深めるためというお話でしたが、現在の年間36万人が、一部リニューアルすることによって、利用者数が当然多くなるということも予測されているのかと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○推進担当係長 今回、宇宙コーナーの方針に加えまして、違う分野ということで、北海道の地質ですとか、気候についても、かなり力を入れて展示していきますので、いつも来ていただいている方のほかにも、今まで来たことのない方にもお越しいただけるのではないかと期待しておりますし、また、休館の期間も長かったということもあって、いつ再開するのですかという声も科学館の

ほうには寄せられているようなので、今までの36万人以上の来館者を目指したいと思っております。

○阿部委員 具体的な目標というわけではないと思いますが、ある程度の想定数はありますか。

○推進担当係長 新まちづくり計画の中では、目標は40万人と目指しておりますので、それに少しでも近づけるように、PR等々の努力をしていきます。

○阿部委員 はい、わかりました。

○池田（光）委員 事業の中でどう活用するかとか、そういうシミュレーションのようなものは、あるということでしょうか。

○推進担当係長 青少年科学館には、教員の方を2名ほど派遣しておりますので、4年生の授業ならこういう展示の回り方というような解説書、ワークシートといったものは今も用意していますし、新しい展示になっても、その展示内容に応じて更新していこうと思っております。

○山中委員長 事業の一環としてもいろいろ活用していただいているということなので、一層それを推し進めていただくように検討したいと思います。
ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○山中委員長 それでは、報告第1号につきましては以上といたしますが、一層工夫をしていただいて、より意義のある施設としていただくようお願いしたいと思います。

ここからは公開しない議案となりますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。

以下 非公開
